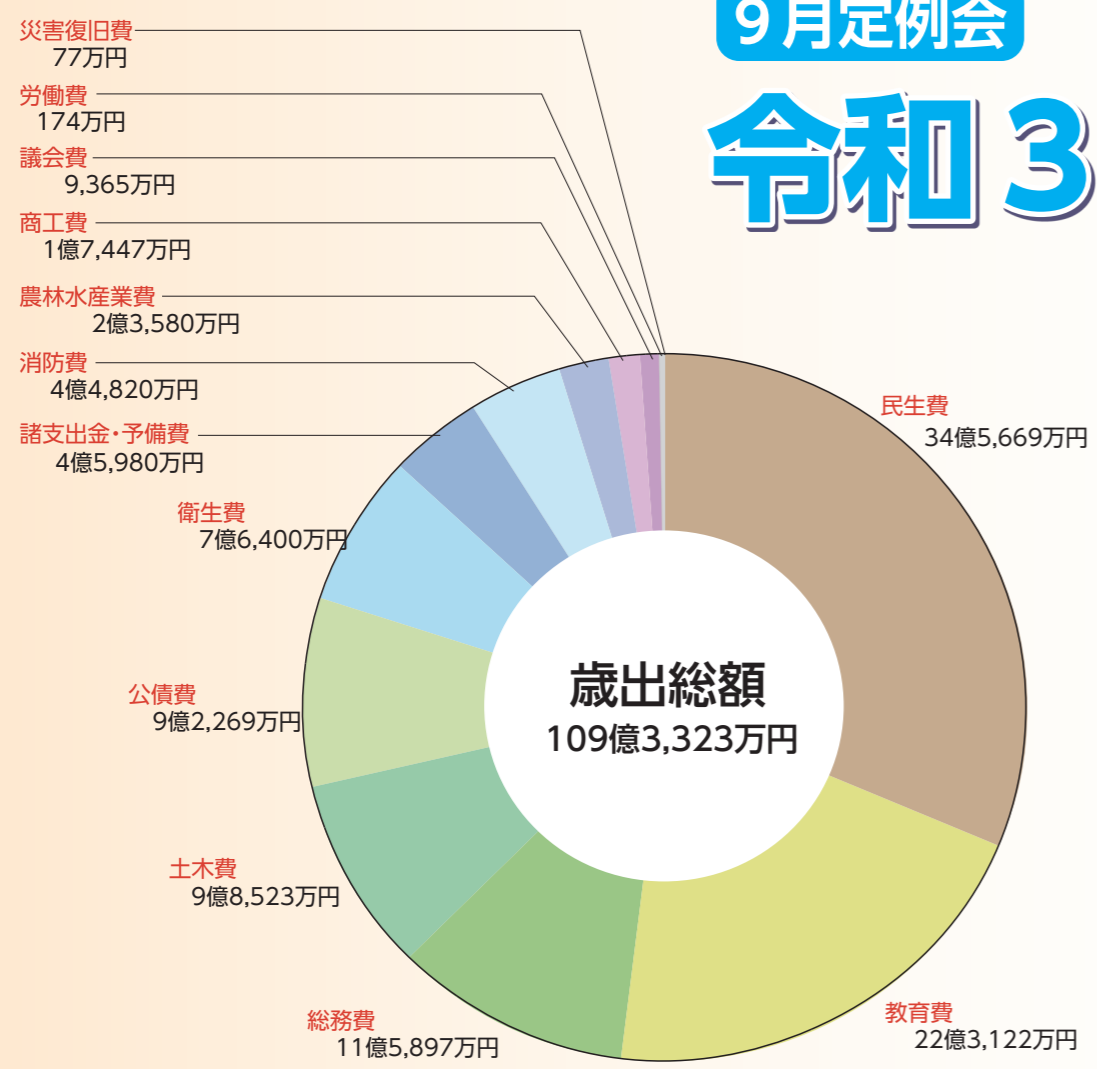


9月定例会 令和3年度

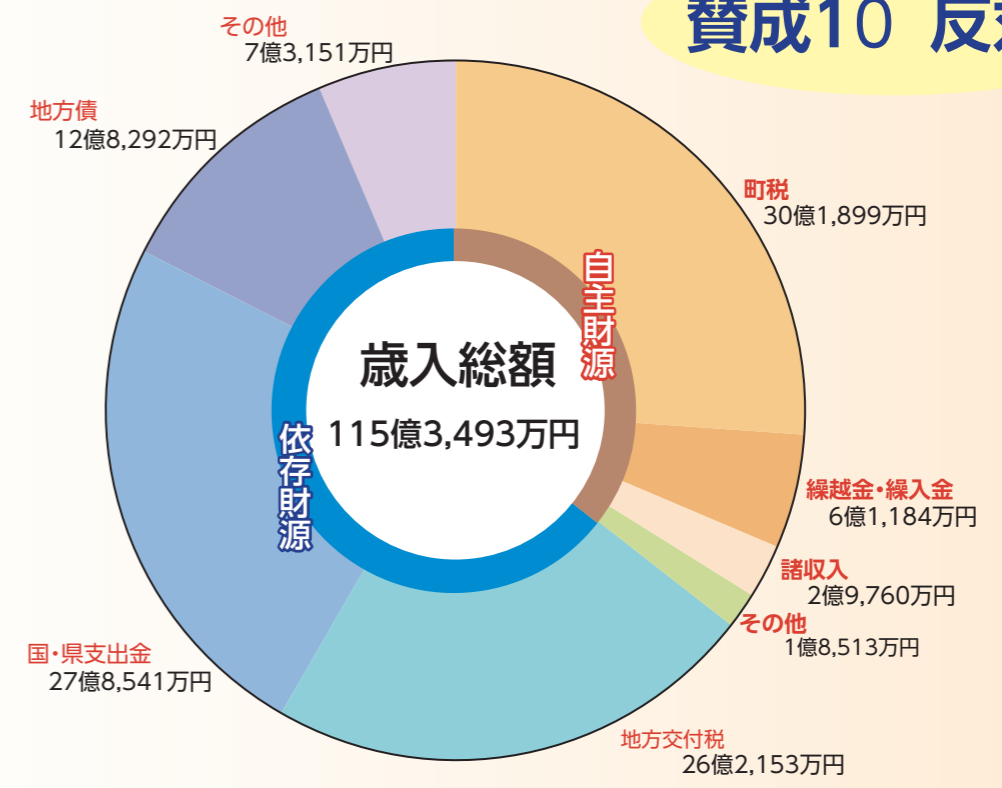


※端数等の関係で、1万円単位の誤差が生じています。

令和3年度一般会計における決算は、歳入が115億3,493万円、歳出が109億3,323円で、歳入決算額から歳出決算額を差し引いた歳入歳出差引額（形式収支）は、6億170万円の黒字となった。また、形式収支から翌年度へ繰越すべき財源を差し引いた実質収支は、4億9,922万円となった。

一般会計決算認定 **可決**

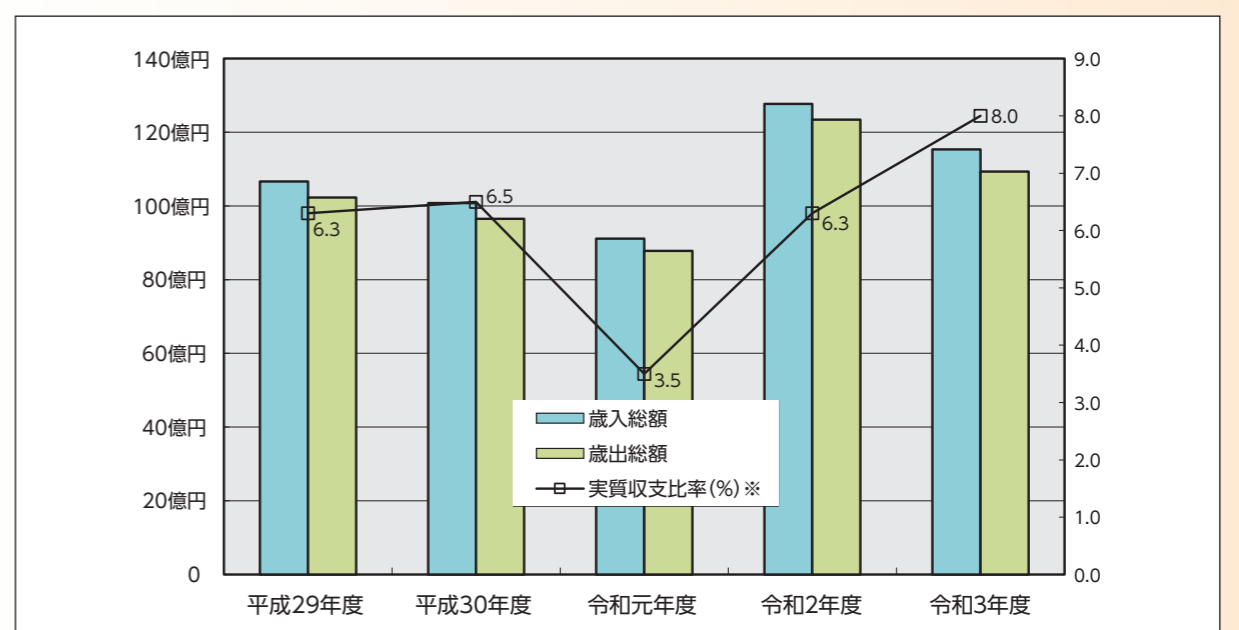
賛成10 反対3



※端数処理により合計数値等が異なる場合があります。

自主財源のうち町税が約73%

過去5年間の決算状況



※実質収支比率とは、自治体の財政規模に対する収支の割合を示します。収支が黒字なら正の数、赤字なら負の数になります。

1. 町政運営について
令和2年度に引き続き、3年度も、新型コロナウイルス感染症対策に費やされ苦勞されたと思います。そのような状況の中で、第2次愛荘町総合計画に掲げためざまの姿「愛着と誇り。人とまちが共に輝くみらい創生のまち」の実現に向け、重点戦略である「ひとづくり」「しごとづくり」および「まちづくり」プロジェクトを着実に進められました。また、ポストコロナに向けた経済構造の転換、好循環の実現に向け、地域の実情に応じた効果的・効率的で、きめ細やかな施策に取り組み、高く評価しております。令和4年度は、総合計画前期基本計画の最終年度であり、後期基本計画につなぐ重要な1年ですので、引き続き安定した町政運営となりますようよろしくお願い申し上げます。

2. 行財政改革の推進について
財政力指数、積立金現在高、経常収支比率など、特段悪化している指標はありませんでした。ただし、今後は、年々増加する社会保障費や彦根愛知犬上広域行政組合新ごみ処理施設の建設や、近江鉄道の上下分離移行に伴う負担金等が増加すると見込まれることから、財政運営が厳しくなることが予想され、行財政改革の推進が必要不可欠であると思われ、引き続き、業務のスリム化や補助金負担金の見直し等に積極的に取り組み、生産性の高い行政サービスを提供することが望まれます。加えて、「DX推進」をより一層加速させ、職員への負担軽減も視野に入れ、デジタル化による業務効率化を図ることが重要でありますのでよろしく申し上げます。

3. 悪質な滞納者への対応について
町が実施している様々な住民サービスは、住民の皆様様に納めていただいている貴重な町税等により運営されています。住民の皆様様の公平性の確保と貴重な歳入の確保の観点から、悪質な滞納者に対しては、徹底した徴収対応をお願いします。

決算審査に関し、次の項目について監査委員の意見とする。

愛荘町監査委員 辻井 弘子
同 澤田 源宏